



学校教育目標 「生命(いのち)輝く子どもを育てる」
一心はほかほか、学びはしっかり、体ははつらつー」



とひの かふち

《学校だより》 第12号

令和4年10月17日発行

湯河原町立湯河原小学校

校長 北村和裕

10月7日(金)に終業式を行い、前期が終了しました。そして、10月11日(火)から後期となり、始業式を行いました。前期終業式も、後期始業式も体育館に全校の子どもたちが集って行いました。全校で揃っての式は、実に3年ぶりでした。290人が集っての式は、オンラインで行うよりも厳かにかつ一体感があるように思います。さらにもう1つ3年ぶりだったのが、児童代表の言葉でした。終業式は2年・3年・支援級の児童4名が、始業式では4年・6年生の児童が壇上で堂々と発表しました。全校の前での発表ですから緊張はしていましたが、自分の思いをしっかりと伝え、みんなから大きな拍手が贈られました。コロナ禍でいろいろな活動が制限されたり中止になったりしていましたが、コロナ前に徐々に戻りつつあります。



前期終業式 児童代表の言葉

ハラハラドキドキ、落語に大爆笑の「わんぱく寄席」

9月29日(木)に芸術鑑賞会が行われました。今年度は「わんぱく寄席」です。3・4時間目が1・2・3年生、5・6時間目が4・5・6年生というように上学年と下学年に分かれての鑑賞でした。下学年の中で盛り上がったのは、傘回しや五階茶碗などの曲芸でした。回る傘の上に升や茶碗を乗せて落とさないようにしたり、茶碗を積み上げて行ってバランスをとったりしています。見ている子どもたちはハラハラドキドキで「落ちちゃうよ」と叫ぶ子もいました。一方、上学年で盛り上がったのは落語でした。1人で何役も演じ分ける話術は見事で、さすがは日本の伝統芸能です。子どもたちは想像しながら聞き、話の展開や言葉のおもしろさに大笑い。最近ではコロナ禍で大声は出さないようにしているだけに、子どもたちの笑いがあちらこちらから湧き起こって体育館は温かい雰囲気になりました。



五階茶碗の曲芸

菜の花の種まき 1年生

10月3日(月)に1年生が千歳川の東海道線ガード下のところで菜の花の種まきを行いました。現地に着くと「千歳川をきれいにする会(菜の花会)」の方々に温かく迎えていただきました。高水敷(こうずいしき)に降りると花壇はもうすっかり土地が耕され、肥料がまかされていました。「菜の花会」の方が準備してくださっていたのです。グループごとに花壇内の草や枝、石拾いをしてからまき方を優しく教えていただき、いよいよ種まきです。子どもたちは、1列になって小さな小さな種の粒を握って丁寧にまき、上からそっと土をかぶせていきました。最後に、いろいろとお世話をしてくださった菜の花会の方々に全員でお礼を言いました。菜の花が咲くのを楽しみにしながら、温かく降り注ぐ日差しの中を学校に戻っていきました。



丁寧にまいていこう

おもいやり算

÷	×	－	＋
わけあう	声をかける	ひきうける	たすけあう

考えながら話を聞く子どもたち

後期の始業式で「おもいやり算」の話をしました。初めは何のことか分からなかった子どもたちも「『+』は『たすけあう』です」と説明すると、「次は『ひく』か」とざわつき始めました。次の『×』に進むと、あちらこちらでつぶやきが聞こえてきます。『÷』になると口々に予想した答えを言い始めました。『きく』という漢字は『聞く』『訊く』『聴く』などがありますが、この時の子どもたちは『聴く』の漢字がぴったりのように思います。耳と目と心を使っていました。特に『心』を使って考えながら聴くことができている素晴らしかったです。

(その他、子どもたちの様子は学校のブログに掲載中)

<https://www.yusho.site/>